



教員が研究の楽しさを語る

第162回(6/20)鴻野わか菜先生推薦

ブックガイド



※掲載されている本はL棟2階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

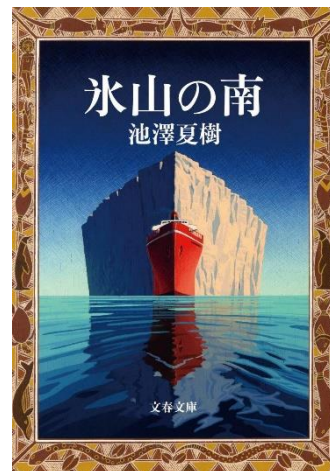
Book1

氷山の南

著者：池澤夏樹著

出版：文藝春秋, 2014.9 (文春文庫, [い-30-8])

コメント：氷山を見るために南極船に密航者として乗りこんだアイヌの青年を主人公とする冒険小説。その船の乗組員達は、水不足を解消するために氷山をオーストラリアまで運ぶという壮大な計画を進めていた。だが、そこに「敵」が現れ……。本書を読むと、自分の場所を探すために旅に出かけたくなる。解説は、ロシア文学者の沼野充義氏。



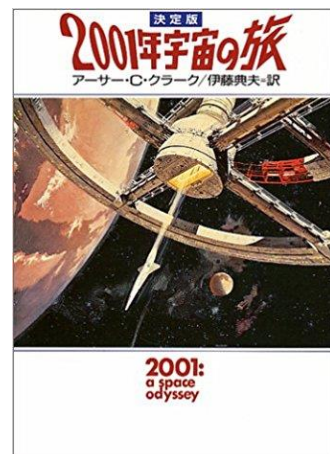
Book2

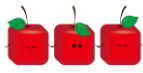
2001年宇宙の旅：決定版

著者：アーサー・C. クラーク著；伊藤典夫訳

出版：早川書房, 1993.2 (ハヤカワ文庫, SF1000)

コメント：コンピューターに意志はあるか、人類を越えた知能は宇宙に存在するかという重要な問題を扱ったSFで、キューブリックによって映画化された。南極ビエンナーレには、子供の頃にクラークの作品を読んで宇宙学を志し、若くして宇宙事業の会社を立ち上げたインドの研究者も参加しており、本書について南極船で皆で語り合った。





Book3

フォードロフ伝

著者：スヴェトラナ・セミーノヴァ著；安岡治子，亀山郁夫訳

出版：水声社，1998.6

コメント：祖先の復活や不死を求めた19世紀の思想家ニコライ・フォードロフのことを、南極ビエンナーレの期間中、しばしば思い出した。ロシアの芸術家アレクサンドル・ポノマリョフが南極で国際芸術祭を開くという途方もない計画を思いついた背景には、不可能なものを夢見てきたロシア思想・哲学の影響があると思う。世界を新しい視点で見ることを可能にする1冊。

